

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

<第3回定例会>

2018年10月12日

No. 191

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

陥没の危険——地下鉄沿線道路を全面的に調査せよ、清田通の地下で大量の土砂流出、対策急げ！

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は10日、決算特別委員会で胆振東部地震によって陥没した東15丁目屯田通と陥没の危険がある清田通の対策について質問しました。

伊藤議員は、今回の地震で東区東15丁目屯田通りが東豊線環状通東駅付近から栄町駅付近の約4kmにわたって最大1.5mの深さで陥没した問題で、「北区では北34条駅北側で約270mにわたって道路が陥没し、白石区では南郷通18丁目駅西側の道路が約130mにわたって陥没したが、いずれも地下鉄沿線上であり、震度5強や6弱でこれだけの陥没被害が起きたことについて建設局としてどのような問題意識を持っているのか。今後も同様の事態が起きる懸念はないのか」、また、専門家から液状化の可能性も指摘されているとして、「地下鉄沿線の道路について、土質など全面的に調査すべき」とただしました。

伊藤維持担当部長は、「緊急輸送道路でもある東15丁目屯田通で大きな被害が発生し、市民生活に大きな影響を及ぼすなど重大なことと認識している」「現在、原因調査中であり、その結果を踏まえその他の区間についても検証が必要か検討したい」とのべました。

また、伊藤議員は、清田区の住宅地でブロックが積まれたがけが液状化とみられる土砂の噴出で崩壊し、その上を走る清田通が沈下するなど危険が及んでいる問題を取り上げました。

崩壊したがけ地の真上に住む住民から清田通の歩道付近が沈下を続けており、道路中央のひび割れも日に日に広がっていると相談が寄せられたとのべた伊藤議員は、この住民が地盤沈下で家がゆがむなど自ら被災しながらボランティアの力を借りて10トトラック10台分もの土砂を撤去し、また、自費で簡易な地質調査を行い、その結果、清田通沿いの歩道付近には、地表から4～5m下に超軟弱な部分が高さ2mにわたって存在することが判明したとのべました。

伊藤議員は、地質調査を行った技術者が「地下に空洞に近い部分が存在する可能性があり、その状態によっては清田通が陥没する可能性も否定できない。大雨や地震があればその可能性は高まるのではないか」とのべていることを紹介。「清田通は交通量の多い幹線道路であり、陥没することになれば大惨事となる。土砂の流出による影響を調査し、対策を講じるべき」とただしました。

伊藤部長は、「10m程度の区間で最大20cm程度の沈下が確認されたため補修を実施した。路面下の空洞も考えられることから確認のための調査を実施している」「空洞調査の結果を踏まえ路面を監視しながら必要に応じて追加調査を検討したい」とのべました。

伊藤議員は、「土砂が噴出した場所は、かつて沼地からの沢筋となっていたところで、宅地造成で埋め立てる際、ポンプで水を吸い上げていたとの証言もある」と指摘するとともに、「清田通に面した住宅のすぐ裏手のがけ地が大量の土砂の流出とともに崩壊し、地盤が沈下しているのに、道路だけの対策では問題」と強調。2016年の熊本地震の際、国交省は「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」の要件を緩和し、擁壁などの工事に対する補助事業を実施しているとのべ、「この事業を活用して、土砂が流出したがけ地への抜本的な対策を行うべき」とただしました。

伊藤部長は、「民地におけるがけ地対策について、どういう対応が可能か所管している都市局と協議していきたい」と答弁。伊藤議員は、「個人ではどうにもできない被害であり、抜本的な対策を講じなければ大変な事態になりかねない。その現状に寄り添い、対策をとるのが自治体の役割ではないか」と迫りました。